

しんぐう
新宮市

はまゆう、川さつき なぎの木、熊野杉、天台烏薬

HPアドレス <http://www.city.shingu.wakayama.jp/>

市名の由来

新宮とは、^{くまの}熊野速玉大社が^{せんざ}現社地に遷座して、^{かみくら}旧社地神倉山に対して新宮殿を「新宮」といったからであろうと『熊野山略記』に記されています。

市章の由来

波と山をかたどっています。大きくうねり激しく岩をかむ波、高くそびえ^{いくえ}幾重にも連なる山、この山の^{つら}抱くところに新宮市があります。

「天うつ波と、とりよろう山に守られてここに平和の都市がある。繁栄の都市がある。」新宮市の^{きしゅう}徽章はこのようにささやき告げています。

市の紹介

新宮市は、和歌山県、^{なら}奈良県及び^{みえ}三重県の県境が接する紀伊半島の東南部に位置して太平洋に面し、温暖で^{こうしつ たう}高湿多雨な気候風土により豊かな水資源と樹木育成に^{めぐ}恵まれた自然環境の中にあります。

歴史的に古くは、神武天皇東征のコースにあって、『日本書紀』などには熊野神邑（くまのかむのむら）とよばれ、熊野信仰の中心都市として栄えました。中世には、熊野参詣・熊野三大社のひとつ熊野速玉大社の門前町として発展しました。明治以降は、熊野材の生産地、製紙業や製材業で繁栄した歴史をもち、今日まで熊野地方の行政、経済、文化、教育の中心都市として発展してきました。

世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」の熊野古道「大雲取越」「小雲取越」「高野坂」や川の参詣道「熊野川」、名勝「^{どろきよう}瀨峡」をはじめ、素晴らしい^{けいこく}渓谷や数多くの^{たき}滝など、熊野の海や山や川の織りなす豊かな大自然があります。文化面では、佐藤春夫や中上健次、東くめ、西村伊作などの多くの文化人を輩出しています。また、源平の合戦で有名な熊野水軍を今に伝える「御船まつり」や毎年2月6日に行われる熊野山伏の伝統をもつ「お燈まつり」、三輪崎の鯨踊り等、祭りや伝統芸能もさかに行われています。さらに、秦の始皇帝の命を受け不老不死の霊薬を求めて熊野に渡来した徐福伝説による中国や台湾との交流、米国カリフォルニア州サンタクルーズ市との姉妹都市交流など、多種多様な異文化との交流も活発に行われています。

熊野文化と豊かな自然を活かし、「時代に調和する人を育み、自然と調和するまちづくり」を基本理念とし、地域の活性化を図るとともに、時代の潮流に対応した快適な都市づくりをめざし、古今東西の全ての人と文化が集い、交流し、賑わいをみせる、まち全体が華やいだ都市づくりに努めています。



高野坂



佐藤春夫記念館